

勿凝学問 280

2 大政党制ではなく、日本をふたつの国に分けるってのはどうかな？

2010 年 1 月 10 日

慶應義塾大学 商学部

教授 権丈善一

1 月 8 日金曜日は、今年最初のゼミ。例年、新年最初のゼミの夜は新年会という名の合宿があり、東京の（修学旅行で使うような）老舗旅館に出かけることになっている。現役生が旅館の夕食を終えて、風呂に入ったりしている頃になると、卒業生が酒や肴をかかえて集まってくる。そして、学年の垣根もなく、酒を飲んでダベったり、夜更かししたり、そこらの廊下に潰れていたり。かれこれ 10 数年前に、ケンブリッジにいたとき、僕の家は、しょっちゅうホームパーティの場となっていて、深夜の 2 時、3 時まで遊んでいた——みんな自転車で帰ることができるもんで。でもそれは東京では無理で、そうしたホームパーティを日本で行う方法はないか？という発想から生まれたゼミの企画である。

ということで、先日金曜日の夜——仕事を終えた卒業生が三々五々に集まり、40 畳ほど（？）の座敷で、飲んでいた。やってきていた卒業生の大方は僕のホームページを読んでいるから近況の説明などまったく必要なく、最近は何がどんな遊びをしているのか知っている。そうした中、「この国では、2 大政党制というのはムリだな。片一方が勝ったら、もう片一方は余りにも不幸せ。そのくらい距離がありすぎる。だからもう、この国は、ふたつに分けるしかないだろ。フォッサマグナを軸として東西の日本とか、日本アルプスを軸として、南北の日本とかに分ける。それしかないんじゃないか」というバカ話をして遊んでいた。

そして翌日 9 日の『読売新聞』の社説が目を引き。

「埋蔵金にはもう頼れない」

…それなのに菅氏は、なお無駄減らしにこだわっている。特別会計などをいくから見直しても、そうあてに出来ないことは、今回の予算編成で明らかだ。

そして翌日 10 日の『朝日新聞』の「声」が目を引き。

「特別会計の改善を菅氏に期待」

…財務相に就任した菅直人氏は早速、財務省改革や特別会計の見直しに意欲を示しました。「よくぞ言ってくれた」と賛成する国民は多いと思います。

やっぱり、国をふたつに分けるしかないんじゃないかな。2大政党制では、隔たりが大きすぎてお互い辛すぎだと、本当に思う。連邦制では、同じ中央政府を掲げることになるんだらうから、そんなのでは解決策にはならなさそうだ。

少し関連する文章

勿凝学問 251 [民主主義とは「最大多数の最大幸福」か、それとも「多数の専制」か？——ベンサムとジョン・スチュアート・ミルが観たそれぞれの世界](#)

勿凝学問 255 [2つの国民——日本人の少数派と多数派](#)

勿凝学問 262 [社会保障政策に関する国民負担率決定論の検証過程——「真っ逆さーまーにいー随ちてデザイナー♪」という将来予測は、いかなる根拠に基づくのか？](#)

ケンブリッジもの

勿凝学問 129 [政権奪取、民主党の確かな手応え？——無責任なことを言えば言うほどうまくいく](#)